

2014年7月6日 聖餐礼拝  
説教 怒りにつける薬  
マタイの福音書5章17-32節

怒りの問題。これは私たちにとって切実な問題。表に出て行く怒り、内にこもる怒り。怒りにつける薬があるならば、私たちのだれにも必要。その薬は主イエスです。主イエスだけが、私たちの怒りをいやすのです。

【律法の成就】

「兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません」(22)は、私たちを震え上がらせます。私たちは、みな怒る。私たちはみな、滅びるしかないのでしょうか。怒りだけではありません。「わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思っはなりません。廃棄するためにではなく、成就するために来たのです」(17)。律法のすべてを完全に守らなければ、救われないのでしょうか。もちろんちがいます。

最初に出エジプト、そしてその後でシナイ山。この順序は重要。イスラエルは、良い民であったから、救われたのではなく、神さまのあわれみによって救われました。そして救った後で、神さまとともに歩くことを教えてくださった。その後も、イスラエルは背き続けますが、神さまはあわれみに胸を熱くしながら、愛し抜かれ、そして、ついに、御子主イエスをお送りくださった。

だから、律法の成就というとき、それは、律法を完全に守らなければ、さばかれるという意味で

はありません。主イエスが神さまと共に歩ませてくださるという意味。歩むことが出来ない私たち、怒りに襲われて、たびたび、立ち止まる私たち。それはいけななことなだけけれども、だからこそ主イエスが、そこをおおってくださるのです。

【カインとアベル】

創世記4章のカインとアベル。神さまが取り扱っておられるのは、怒りへの対処。怒ったことそのものを責めておられるのではない。怒ったら、その後でどうするか。神さまはカインに、怒りをかき立ててカインを支配しようとする罪を治めるように、と言いました。カインは、神さまに、「どうして私のささげ物に目を留めてくださらないのですか？」と尋ねることも、アベルに「どうして私のささげ物には目を留めてくださらなかったのだろう」と訊いたり、「どうか、神さまが私のささげ物に目を留めてくださるように、とりなして欲しい」と頼むこともできました。

【二つの道】

怒ったカインの前には、二つの道があった。「神さまと和解し、アベルと和解する道」と「和解を受け入れない道」。カインは誤った道を選んだ。カインの怒りにも正しさが含まれていました。神さまが理由も知らせないで、アベルにだけ目を留めたのだから。けれども、怒りをだいに抱え込み、何度も思いだしては憎しみをかきたてる道を選んでではならなかった。アベルと力を合わせて、

怒りを乗り越え、互いの間に強い絆を築いていくべきでした。

私たちの前にも、やはり二つの道が。礼拝に行く前に、「まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい」(5:24)と。「和解の道」を選ぶのです。実は私たちは、すでに、いのちの道をいっしょに歩いています。罪は怒りをかき立てて、私たちを、すでに歩いているいのちの道からそらせようとしています。でも、私たちはキリストのひとつからだです。固く抱きしめ合って、罪のいいようにはさせないのです。

【打たれた主イエス】

それにしても、あまりに未熟な私たちが和解の道を歩むことができるでしょうか。どうしたら、正しさと正しさがぶつかり合う、そこを超えていくことができるのでしょうか。

「キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです」(1ペテロ2:24)。主イエスの時代にも人々は、それぞれの正しさを振り回して、その正しい怒りを主イエスにたたきつけました。しかし、主イエスは彼らの怒りをからだで受けとめ、人々の怒りをいやして、新しいいのちの道を開きました。だから私たちは、覆い合うことができます。主イエスの愛にいやされて。怒りにつける薬とは何か、それは私たちの内にいますキリスト。今、たがいの内なるキリストを祝う宴会を行います。それが、聖餐なのです。